

サロベツ湿原センター

天塩郡豊富町上サロベツ8662番地
TEL.0162-82-3232
FAX.0162-82-1009

■開館時間

- ・ 5月 …………… 9:00~17:00
- ・ 6月~ 7月… 8:30~17:30
- ・ 8月~10月… 9:00~17:00
- ・ 11月~ 4月… 10:00~16:00

■休館日

- ・ 5月~10月…無 休
 - ・ 11月~ 4月…月曜日
- ※月曜日が祝日の場合は翌日
※年末年始12/29~1/3

■入館料

- ・ 無 料

レストハウス サロベツ
TEL.0162-82-1230

■営業時間

- ・ 4月下旬または5月上旬GW~10月
(レストラン営業時間11時~15時)



サロベツ湿原センター外観



サロベツ湿原センターの展示の様子



泥炭産業館の展示の様子

■交通の目安

- マイカー
稚内-豊富/約45分(R40)
旭川-豊富/約3時間35分(高速-R40)
札幌-豊富/約5時間25分(高速-R40)
※高速を利用しない場合は+25分
豊富-サロベツ湿原センター/約7分
- JR(宗谷本線)
稚内-豊富/約40分
旭川-豊富/約3時間05分~3時間25分
札幌-豊富/約4時間25分~5時間
- バス(沿岸バス)
特急はほろ号(駅前発着)
札幌-豊富/約5時間05分
路線バス
豊富-サロベツ湿原センター/約9分



展望台や休憩デッキなども設けられている木道



エゾカンゾウと利尻山



マガンの群れとエゾキウサギ

サロベツの大地とあなたをむすぶ
NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

サロベツ湿原の玄関口として国立公園の見どころや自然について紹介するほか、「人と自然の共生」の観点からサロベツ湿原の自然・人文・歴史などについてわかりやすく解説し、自然再生の目的や取り組み状況など、様々な情報を提供する「サロベツ湿原センター」。

敷地内にはサロベツ湿原の自然や原野開拓の歴史などを分かりやすく解説した展示施設や泥炭採掘の歴史を物語る「泥炭産業館」、園地内の排水を浄化する水質浄化湿地、さらに絶景の利尻山を眺めながら湿原植物を間近に観察できるバリアフリーの木道が整備されています。

そのサロベツ湿原センターを拠点に、様々な活動を展開しているのがNPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク。事務局長の嶋崎さんによると「当法人はサロベツの自然と地域を愛する人々が集い、平成16年4月に設立されました。

自然環境の保全、調査研究、環境教育

を3本柱に、自然と人間との共存の大切さを広く発信し、併せて地域の発展と豊富町の活性化に寄与し、サロベツと周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として地域に根ざした活動を続けています。

具体的な活動としては、サロベツ川・ペンケ沼清掃や稚咲内町有砂丘林再生活動、豊富温泉の湯治客を対象とした体験プログラム、地域の子どもたちとの活動「なまら!!サロベツ∞クラブ」、大人向けの「サロベツ自然語講座」、学校訪問、あるいは地元高校生のサブレンジャーの受入れなどを通して、地域密着型の育成事業に尽力。

また、湿原の動植物調査、外来種の駆除や公園施設・木道維持管理と幅広く活動しています。

さらにNPO法人の支援金となる有料体験プログラムもあります。サロベツ原野ガイド&カヌー、オーダーメイドツアー、バスツアー向けプログラムなどを6名のスタッフで企画、実施しています。

私たち一人ひとりにできること

草や木、鳥や虫も、それぞれ命を持っています。私たちは、そっとのぞいてみるだけにしましょう。○木道からは降りないこと○鳥の巣に近づかないこと○野鳥をおどろかさなないこと○大声を出さないこと○鳥が安心して距離から観察すること○動植物をむやみに採らないこと○ゴミを捨てないこと(持ち帰る)。



秋の渡り(ヒシクイ)

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

わがママチじまん

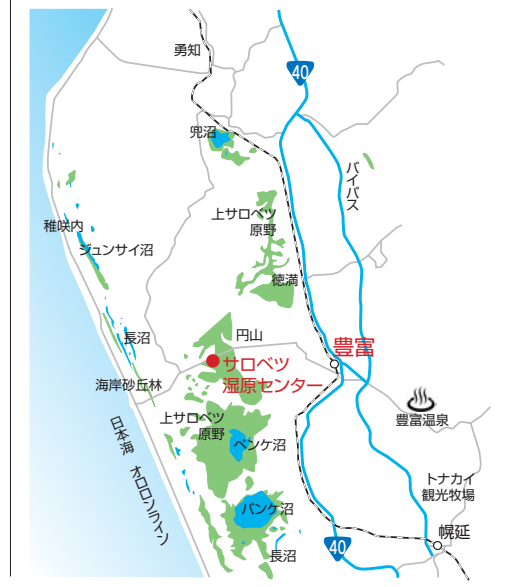


豊富町

豊富町 WEB LINK

- NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
<http://sarobetsu.or.jp/>
- サロベツ湿原センター
<http://www.sarobetsu.or.jp/center/>
- 豊富町ホームページ
<http://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/>
- 豊富町観光協会
<http://toyotomi-kanko.net/>

サロベツ湿原 MAP



サロベツ湿原 北海道の雄大な自然がそこにある

サロベツ湿原は北海道北部に位置する日本最北の国立公園、利尻礼文サロベツ国立公園内に含まれる湿原群。その面積は国内第3位の約6,700ha。これは、東京の山手線がすっぽりと納まってしまふほどのスケールです。その中でも特に貴重な高層湿原の面積は562ha以上もあり、日本最大規模を誇ります。

湿原内を自由に歩くことはできませんが、散策用の木道を辿れば十分にその魅力を体感することが可能です。その際、予め「サロベツ湿原センター」に立ち寄り、湿原の概要や生き物たち、直面する課題などの知識を身につけておくと、さらに散策が一層楽しめることでしょう。

詳しくは湿原センターで情報を得てほしいと思いますが、以下におおよそのサロベツ湿原の植物とそこに生息する生き物たちを紹介します。

550種を超える植物が確認されています。ガンコウランからワタスゲ、ヒメシヤクナゲ、エゾカンゾウなど、時期に応じて様々な花が可憐に咲き競います。

哺乳類は27種確認。ヒグマやエゾシカ、キタキツネといったお馴染みのものからエゾキウサギ、エゾリス、エゾモモンガ、エゾクロテン、エゾオコジョ、トガリネズミ類が生息しています。それらのうちトウキョウトガリネズミなど10種が全国版レッドデータブック「日本の絶滅のおそれのある野生生物・脊椎動物編(環境省)」に掲載。

サロベツ湿原とその周辺の環境は野鳥にも多様な生息場所を提供しています。これまで200種以上の鳥類が確認。オオヒシクイなど水鳥の渡りの中継地、ミコアイサの国内での数少ない繁殖地としても非常に重要な位置を占めています。鳥類の中には「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・鳥類編」に掲載されているマガン、ヒシクイ、オジロワシ、オオワシなど20種が含まれています。

また、魚類では天然記念物のヒブナやテツギヨがペンケ沼やパンケ沼において確認。「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物・汽水・淡水魚類編」掲載のイトウ、エゾトミヨも生息しています。



NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク 事務局長(学芸員) 嶋崎 暁啓さん

大学2年の時にサブレンジャー(環境省のレンジャーの補佐として、国立公園で自然観察ガイドなどを行う大学生や高校生)として初めて訪れてから、毎年サロベツに来るほど好きになりました。「サロベツらしい形で人と自然をつなぎ、より良い関係を築きたい」と考え、2007年に当地に着任しました。ここの自然は何年暮らしていても、発見や感動に満ちていて、いつ来ていただいてもその時にしかない出会いがあります。春と秋に飛来するオオヒシクイやコハクチョウなどの数千羽の渡り鳥の群れは圧巻です。運が良ければ木道からV字編隊を目撃できるかも。